

14 学校支援ボランティア活動の推進方策に関する調査研究  
研究代表者 馬場 祐次郎（社会教育実践研究センター長）

①研究の趣旨，ねらい

学校支援ボランティア活動の先進的な取組の事例調査から、学校支援ボランティアを対象とした研修の実施内容を把握し、学校支援ボランティアの資質向上のためのモデル研修プログラムを開発する。

②研究成果の概要

- 学校支援ボランティア活動の先進的な取組を進めている9か所について聞き取り調査を実施し、学校支援ボランティアを対象とした研修の実施状況を把握するとともに、その推進方策を検討した。
- 調査した9か所について、ケーススタディを行い、学校支援ボランティアを対象とした研修における、ア)研修のねらい、イ)内容と方法、ウ)研修成果の活用の観点から分析し、取組の成果と課題を明らかにした。
- まず、学校支援ボランティア活動の現状として、学校支援地域本部事業の概要と取組の現状を示し、ケーススタディをもとに学校支援ボランティアに求められる資質・能力と研修の方向性を示した。
- その上で学校支援ボランティアに求められる資質と研修の在り方について、ケーススタディをもとに、ア)研修の目標、イ)研修の位置づけを明らかにした。
- 学校支援ボランティアを対象とした研修プログラムについて、研修の基本構成と研修内容の構造モデルを示した。
- 学校支援ボランティア研修のプログラムの展開について、ア)プログラム展開の要点、イ)研修実施上の課題とそれへの対応を示した。
- 今後の学校支援ボランティア活動への期待として、ア)「ふるさと」の拠点・学校、イ)社会関係資本の再興、ウ)ネットワーク行政の3つの視点からまとめた。

③中期目標との関連性

- 中期目標〔目標4〕「社会教育分野での実践的な研究の推進」に関連するものである。特に学校支援ボランティアを対象とした研修の実施内容を把握し、学校支援ボランティアの資質向上のためのモデル研修プログラムを開発するという視点から、(1)「社会教育の現場における課題の把握とその解決に関する調査研究の実施」に関する調査研究に関連するものである。

○社会教育実践研究センターの活動目標【目標3】「社会教育指導者の資質向上を図る取組への支援を行う」ことに関連し、学校支援ボランティアの資質向上のための研修内容の充実につながるものである。

④本研究に盛り込まれている主なデータ項目

○学校支援地域本部事業～全国における取組状況（平成20年12月現在）

⑤今後の研究予定

○平成21年度に「学校支援ボランティアの活動を支援するコーディネーターの養成等に関する調査研究」を実施し、その結果を調査研究報告書にまとめる。

⑥キーワード

- (1) 学校支援ボランティア (2) 学校支援地域本部事業  
(3) コーディネーター (4) モデル研修プログラム  
(5) 研修内容の構造モデル

⑦本研究の研究報告書

○学校支援ボランティア活動の推進方策に関する調査研究報告書

⑧関連する先行研究や参考となる研究等

○「青少年の体験活動ボランティア活動のコーディネーター養成研修プログラムの開発」

：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 平成15年度

○「学校における体験活動ボランティア活動のコーディネーター研修プログラムの開発に関する調査研究」

：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター平成16年度～平成17年度

○「子どもの居場所におけるコーディネーターの研修プログラムの開発に関する調査研究」

：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 平成17年度

○「社会教育を推進するコーディネーターの役割及び資質向上に関する調査研究」

：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 平成19年度